

中川 晴夫

東北大学病院泌尿器科 講師

夜間頻尿と転倒による骨折・生存率低下との関連に関する研究

夜間頻尿は加齢に伴い有症状率が上昇する。夜間頻尿は排尿症状の中で最も生活の質（QOL）を低下させることが知られている。今回の研究では夜間頻尿が QOL の低下だけでなく、生命 予後や寝たきりの原因ともなる高齢者の骨折とも密接に関連していること、高齢者の死亡率と密接に関連していることを明らかにするため、70 歳以上の高齢者 に対して疫学調査による横断研究を行った後にコホート研究を行った。Cox の比例ハザードモデルによる解析を行ったところ、5 年間のコホート研究では夜間頻尿を有する群では夜間頻尿のない群と比較して転倒による骨折により入院する危険率が 2.2 倍となった。さらに、5 年間の死亡率では夜間頻尿を有する群では夜間頻尿のない群と比較して 1.93 倍であった。夜間頻尿は QOL を低下させるだけでなく、生命予後や骨折とも関連する重要な症状であることが明らかとなった。